

# 地域密着型金融の取組み状況

(26年4月～27年3月)

倉吉信用金庫

## 1. 地域密着型金融推進の基本方針

当金庫の経営方針は、『創業の原点である相互扶助の精神を大切に、「地域の為に貢献する」という使命感を再認識し、今こそ地域社会の再生と活性化を目指し「使命共同体」としてその中核となって、中小零細な地元企業の支援、地域住民の豊かな生活の向上、活力ある地域社会の実現に向けて貢献し、そのために強固な経営基盤をさらに確固たるものにし、“小さくても最良の暮らし”を実現すること』であり、地域社会の再生と活性化なくして当金庫の発展はないという認識の下で、地域密着型金融推進に継続して取り組んでいきます。

## 2. ライフサイクルに応じた取引先企業の支援強化

### 《取組方針》

地域金融機関としての特性を発揮し、地域情報ネットワークの活用と、継続的取引関係を通じ、取引先中小企業の創業から成長段階（ライフサイクル）に応じたきめ細かい支援を行うことで、地域の金融円滑化の役割を担っていきます。

#### (1) 創業、新事業への積極的な支援

創業、新分野進出に対しては、地域情報ネットワークを活かし、積極的に対応いたしました。

##### ○新規参入・新分野進出への支援

平成26年度の実績 … 25件・293百万円

#### (2) 事業及び企業の積極的な再生支援

##### ○貸出条件の変更に積極的かつ柔軟な対応

中小企業金融円滑化対応として、取引先の資金繰り改善を目的として、積極的に対応いたしました。

平成26年度の実績 … 127件・1,483百万円

##### ○鳥取県中小企業再生支援協議会の積極的な活用

平成26年度の当金庫取引先の再生支援協議会案件は、新規案件1先で遊休不動産

産の一部処分が済み財務内容が改善されたことで、地元金融機関として再生支援協議会と連携し、運転資金の支援を実施しました。

- 産・官・学・金との情報ネットワークを活用した、地域の取引企業への支援
  - ・商工会議所が中心となって運営している産・官・学・金の会「中部元気クラブ」に当金庫役員が中心となって参加し、積極的に情報交換しています。
  - ・平成 26 年 8 月に、日本政策金融公庫と業務特性を活かしつつ、相互にノウハウ等を補完、共有し、創業予定者に対するクオリティーの高い支援を目的として、創業分野での連携をスタートさせました。
  - ・平成 26 年 12 月に、独立行政法人鳥取県産業技術センターと産業技術分野での地元中小企業等への支援、情報交換や情報発信等をおこなうことを目的として、「連携協力に関する協定書」を締結しました。
- 再生支援先の経営改善指導
  - ・平成 26 年度は経営支援先 30 先を定め、うち 6 先を重点先とし経営改善指導の取組を実施し、経営者とのヒアリングや、営業店長との計画の進捗状況の検討を行いました。

期初 債務者数 (除く正 常先)	うち 経営改善 支援取組 み先数	うち 期末に債 務者区分 がランク アップし た先数	うち 期末に債 務者区分 が変化し なかった 先数	うち 再生計画 を策定し ている先 数	経営改善 支援取組 み率	ランクア ップ率	再生計画 策定率
301	30	0	24	30	9.97%	0.00%	100%

### 3. 事業価値を見極める融資手法をはじめ中小企業に適した資金供給手法の徹底

#### 《取組方針》

定性情報を含めた地域での情報を活かし、取引先の事業価値を見極める、いわゆる「目利き力」を発揮することで、取引先中小企業に対して積極的に資金供給を行っていきます。

#### (1) 不動産担保、個人保証に過度に依存しない融資の推進

##### ○売掛債権担保融資の推進と ABL の検討

平成 26 年度 新規取扱件数 6 件・81 百万円

- ・また、動産担保融資として、8 件・88 百万円を取り扱いました。

○シンジケートローンの組成と参加

- ・シンジケートローンの組成、参加実績はありませんでした。

○目利き能力の向上

- ・26年7月28日に、融資レベルアップ研修として、TKC会員税理士11名の参加  
得て、TKC会員税理士による計画策定支援の取組状況、TKC経営指標の活用  
についての研修を、支店長を中心とした13名を対象に実施しました。
- ・26年11月18日に、融資レベルアップ研修として、(1)大口信用供与等規制の改正  
(2)融資先実態把握について(3)コンサルティング能力向上について(4)鳥取県よ  
ろ支援拠点についての研修を、11名を対象に実施しました。
- ・27年3月10日に、地方独立行政法人鳥取県産業技術センターを講師に、ものづく  
り補助金獲得についての研修を、18名を対象に実施しました。

#### 4. 地域の情報集積を活用した持続可能な地域経済への貢献

《取組方針》

この地域のみが信用金庫の生きる地であり、金融の仲介は当然として、親睦、研修、情報交換、ボランティア等さまざまな面で中心的な役目を果たし、顧客・地域の活力作りに貢献することにより、地域に必要とされる金融機関であるため、各種の施策を通じて地域経済活性化への取り組みを行っていきます。

(1) 地域貢献に資するイベント・行事の開催と、地域経済活性化への取り組み

文化・芸術の発展と街の賑わい創出に向けて、地元新聞社が主催する著名人による写真、絵画等の展覧会の特別協賛を継続するほか、以下の活動を行いました。

- ・26年度は4・7・10・1月の4回「くらしん囲碁大会」を開催し、地域の子供から高齢者まで毎回100人以上のファンに参加いただきました。特に、1月に開催した新春大会は、プロ棋士2名を招聘して開催し120名を超える参加者で賑わいました。この囲碁大会では、毎回地元出身のプロ棋士の指導碁等もあり、新規の参加者が増加しており、地域の囲碁の活性化に貢献しています。
- ・27年4月に開学した鳥取看護大学を当地区に誘致する活動について、真庭地区を含む全店舗に誘致推進の幟を立て、署名活動や取引先企業・各経済団体等に対して誘致推進活動の働きかけを行い、当初から誘致活動の先頭に立って取り組みました。
- ・信用金庫のネットワークを活用し、全国の信用金庫の年金受給者対象の観光旅行を当地区に誘致し観光振興に貢献しています。26年度実績は26年5月に1,300名(摂津水都信用金庫)、26年10月に750名(西尾信用金庫)、27年2月に450名

(北おおさか信用金庫)の観光客を取引先温泉旅館と土産物店に誘致しました。  
更に 27 年 5 月には東京(多摩信用金庫)から 1,200 名の年金旅行客を誘致予定です。

- ・26 年 8 月に開催の倉吉打吹まつりには、みつぼし踊りに約 40 名の職員が参加して、地域の人々と交流しました。
- ・26 年 10 月、健康づくりを主体とした地域密着行事として「くらしん健康ウォーク」を開催し、250 人の参加者を得ました。
- ・26 年 12 月、当庫の若手職員で組織する「くらしんヤングコア」が福祉施設の清掃活動および街頭歳末助け合い募金を実施し、集まった募金を地域の社会福祉協議会に寄付しました。また、26 年 12 月、地元の福祉施設 2 先に対して、恒例の新米を寄贈しました。

## (2) ビジネスマッチングの推進

第 4 回となる山陰 6 金庫合同開催の「山陰しんきんビジネスフェア」を平成 26 年 10 月に出雲ドームにて開催しました。当金庫からは 9 事業先が参加し、うち商談成立先が 12 先、継続交渉先が 8 先となっており、引き続きフォローしていきます。

地元開催のビジネスイベントだけでなく、他地区のイベントへの参加についても積極的に取り組んでおり、北おおさか信用金庫主催の「うまいもん市 in 万博」に当金庫のお取引先 2 先が参加されました。また、おかやま信金が中心に開催されている「岡山しんきんビジネス交流会」へも、山陽方面への展開を考えているお取引先に紹介を行った結果、2 先が出展されました。

また中国地区しんきんビジネスマッチングサービスへの登録により、お取引先に対する情報還元等の幅がより一層広がりました。

信金中金ビジネスマッチング情報については、新しい登録が入り次第、全営業店へ連絡することにより顧客への情報提供を行っています。当金庫の取引先企業 2 社も情報掲載いたしました。

## (3) 地元での買い物、発注を推奨する「地賛地商」運動の展開

地域経済の活性化を図る為、倉吉信用金庫では「地賛地商」をスローガンにした PR ポスターを平成 22 年度に作成・配布しましたが、26 年度も外郭団体の講演会での参加者並びにポスター希望先へ配布し、引き続きポスターの活用を継続し地元での買い物、発注を啓蒙しています。